

かがやけ

あさひ

校長室だより 6月 2

話^{はな}しの聞き方^{かた}
バッターボックス
スー一人ずつ

先日児童集会で話したことです。6年生の学級担任をしていた頃、持ち上がりのクラスでクラスの学級目標をみんなで決めることになりました。子ども達から六箇条にしようという提案があり、それぞれがいいと思う事柄を標語にして意見を出し合った時のことです。ある男の子が、「バッターボックス一人ずつ」という標語を出しました。言葉としていいのですが、何か深い意味がありそうなので、私も子ども達も中身を聴きたいと言ったところ、その男子がこう答えました。

「あんな、イチローみたいなすごいバッターが九人いたら、どんなチームにも勝てるんやけど、そんなスーパースターなんてそういないやろ。九人がそれぞれの打席で頑張らないといけないんや。その打順のバッターが一人ひとり頑張らないと…。今打席にたっている人が主役ということやで。日頃から先生は、一人ひとりの話を大事に聴くように話していたやろ、つまりな、これは、話の聞き方で、今話している人の話を大切にしっかり聴くということなんや」と。私もクラスもみんなも「ほんまやな。」ととても感動し、即クラスの六箇条の一つにしました。今話している人が先生であっても、友達であっても、その人を大切にして話を最後まで聴くという姿勢・態度は大切ですし、聴いてもらえるという場があること、受け止めてもらえる仲間がいるからこそ話ができ、そのような雰囲気の中で、一人ひとりの安心感・安定感が生まれてくるのですね。

みんなちがって みんないい

金子みすずさんの詩に「私と小鳥と鈴と」があります。どんなものもそれぞれ**違い**はあるけれど、それがまたいいものだと言っています。人間はもちろん、生き物や鈴のようなものまで、一つ一つの良さを認めようとする心が素晴らしいと思います。また、もう一つ、「土」という詩も、どんな土もそれぞれに役立っているのだよ、役に立たない土はないのだよと言っています。

「自分と違ったところがあるから友達になろう」「違っているからこそ素敵なんだ」という気持ちで人と接していけば、より楽しい学校生活になると思います。

また、「自分は嫌い」「どうせ、自分にはいいところなんて何もない」と思っている人はいませんか。いいところのない子なんてひとりもいません。自分が気づいていないだけです。よく自分の心をゆっくり見つめてください。きっと素敵なおところが見えてきますから。